

「ええじゃないか」研究を振り返って

Looking back upon my study on "*Eejanaika*"
the nation-wide fanatic boom among the people
during the last few months of the Edo era

田村貞雄

TAMURA, SADAŌ

静岡大学情報学部

静岡県浜松市城北 3 - 5 - 1

Faculty of Information of Shizuoka University

3-5-1Jouhoku, Hamamatsu city, Shizuoka prefecture

明治維新直前の 1867 年(慶応 3) 東海道を中心に江戸近郊から四国・山陽道にかけて起こった民衆の狂乱状態を「ええじゃないか」という。「ええじゃないか」では、伊勢神宮をはじめ秋葉三尺坊大権現・津島牛頭天王・豊川稲荷など諸神諸仏の御札が降臨したが、これをきっかけに民衆は街頭に出て狂喜乱舞した。

わたくしは 1980 年代中葉から「ええじゃないか」研究をし、最初のお札降りと思われる豊橋市の史料を用いて、『ええじゃないか始まる』(1987 年)を書いた。この年には、「ええじゃないか」120 年を記念して、「ええじゃないか東海シンポジウム」を豊橋市で開いた。

1995 年度からわたくしは旧教養部から情報学部に移ったが、工学部から来られた方々と科学研究費の重点領域「人文科学とコンピュータ」に応募して共同研究をした、これはわたしにとっては刺激的な、楽しい研究環境であった。

In 1867 (Keio Year 3), the previous year of the Meiji Restoration, the nation-wide fanatic boom among the people called "*Eejanaika*" came out through Tokaido area including Edo (old name of Tokyo) and its suburb towards Sanyodo as well as Shikoku area.

During this "*Eejanaika*" movement, a large number of charms of famous shrines, including Ise Shrine, Akiba Sanjakubo Daigongen, Tsushima Gozu-tenno as well as Toyokawa Inari, dropped out of the skies, which triggered to make people madly dance

on the streets for weeks. I have been studying "*Eejanaika*" since the middle of 80s and wrote "*Eejanaika* Bigins"(1987), with the historical materials from Toyohashi where it was considered the first place of the charm drops. At the same year, celebrating 120th years anniversary of the *Eejanaika* movement, I coordinated "The *Eejanaika* Symposium in Tokai" at Toyohashi city.

Since 1995 until 1998, I co-worked in the joint project, the Computers and Humanities, with Dr. NAKATANI, Dr. ITOH, Dr. KONISHI, Dr. AKAISHI and Dr. ABE, all of whom came from the Faculty of Engineering, after I moved to the Faculty of Information. It gave me a great deal of exciting and inspiring experience with very fruitful results.

【キー・ワード】 ええじゃないか、御鋳百年祭、御蔭参り、秋葉信仰

【Key-word】 *Eejanaika*, Centennial anniversary of god of hoe, Mass visiting to Ise Shrine for thanks, Akiba worship

「ええじゃないか」発端についての諸説

わたくしは、1980年代半ばから明治維新直前に起こった民衆行動である「ええじゃないか」という現象を研究してきた。

「ええじゃないか」のきっかけをなした最初のお札降りについては、戦前には井野辺茂雄「神符の降下に就いて」(1916年)の「七八月の交」名古屋発生説、『維新史料綱要』(1940年)の8月下旬名古屋地方説などがあった。『岡崎市史』第8巻(1930年)のみは典拠をあげないまま、三河発生説をとっていた。なお田村栄太郎「慶応三年”ええじゃないか”」(1960年)のみは8月横浜説である。

藤谷俊雄氏の『「おかしなまいる」と「ええじゃないか」』(岩波新書 1967年)では8月中旬より尾州、三州、遠州の三国で発生したとされた。西垣晴次氏の『ええじゃないか』(1973年)は、『磐田市誌』下巻(1956年)の記す8月15日の遠江国見付宿の事例を初例とされた。その後『豊川市史』(1973年)が三河国御油宿の8月4日の史料を載せ、編纂にあたった大久保友治氏の「「ええじゃないか」の発生について」(1974年)で紹介された。7月22日以前とする豊橋市羽田八幡宮の史料は、岸野俊彦氏・伊藤忠士氏からの史料提供により佐々木潤之介氏の「幕末の社会情勢と世直し」(1977年)で紹介された。高木俊輔氏の『ええじゃないか』(1979年)もこの説である。

加藤善夫氏「県東部のええじゃないか」(1985年)は7月18日夜の吉田宿(現豊橋市中心街)の事例を紹介された。

豊橋市牟呂八幡宮「留記」

7月14日発端を示す牟呂八幡宮の史料「留記」は、愛知大学の歌川進氏によって発見され、橘敏夫氏「御札降り発生地域の関連史料」(1984年)ではじめて指摘され、渡辺和敏氏により『新居町史』第8巻(1986年)で全文紹介された。これは牟呂八幡宮近傍で御札を見つかったが、その出所を疑った2人の人物の家族が急死するという異常な事件を記録している。人々は御鋳百年祭を催促する神の仕業と恐れおののき、御札降臨の臨時祭礼をはじめた。その渦中で吉田宿(豊橋市中心部)で、鳥がお札をくわえて来たという噂が発生し、「ええじゃないか」に発展したのである。

わたくしは御鋳百年祭の先行に注目していたので、牟呂八幡宮の史料こそ「ええじゃないか」の発端を示すものと考え、渡辺氏の了解を得て『ええじゃないか始まる』(1987年)を書いた。

人文科学とコンピュータ

1995年静岡大学の情報学部創立にわたしは参加したが、その折り工学部から参加された中谷広正、伊東幸宏、小西達裕、赤石美奈、阿部圭一の諸氏らに誘われて、1995年度に始まる文部省科学研究費重点領域「人文科学とコンピュータ」に参加した。幸い1998年度まで4年間にわたり共同研究をつづけることができたが、わたしにとっては工科系の方々との共同研究は初めてであり、カルチャー・ショックも経験しつつ、多くのことを学び、実に楽しい思い出となった。